

雄峰高校昼間単位制 シラバス

各科目をクリックすると、該当ページにジャンプします。

○国語

国語総合	p 2
	～ 3

○地歴公民

世界史 A	p 4
世界史 B	p 5
日本史 A	p 6
日本史 B	p 7
地理 A	p 8
地理 B	p 9
現代社会	p 1 0
倫理	p 1 1
政治・経済	p 1 2

○数学

数学 I	p 1 3
------	-------

○理科

科学と人間生活	p 1 4
物理基礎	p 1 5
化学基礎	p 1 6
生物基礎	p 1 7

○保健体育

体育（男子）	p 1 8
体育（女子）	p 1 9
保健 A	p 2 0
保健 B	p 2 1

○芸術

音楽 I	p 2 2
美術 I	p 2 3
書道 I	p 2 4

○外国語

コミュニケーション英語 I	p 2 5
---------------	-------

○家庭

家庭総合	p 2 6
	～ 2 7
生活産業基礎	p 2 8
	～ 2 9
生活産業情報	p 3 0
課題研究	p 3 1

○情報

社会と情報	p 3 2
情報の科学	p 3 3

国語科「国語総合」シラバス

目 標 【学習指導要領】	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	「国語総合」は必修科目であるため、受講する生徒の学力の格差があると考えられる。そこで、まず、中学時学習事項の復習も含め、基礎学力の定着を図る。その上で、様々な作品の優れた構成・表現とその効果について学習することにより、自分の考えを的確に表現する力を養いたい。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4	未来をひらく（随想1）	ルリボンカミキリの青 海流マイクロネシア	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方や感じ方を読み取る。 毎日の生活で本当に大切なものは何かを考える。
	話す聞く	スピーチする	<ul style="list-style-type: none"> 場面や目的に応じて効果的にスピーチする。
5	ふれあう心（小説1）	とんかつ ドライ・クリーニング	<ul style="list-style-type: none"> 表現の特色に注意しながら読み、小説に親しむ。 登場人物の境遇に注意しながら、心情を読み取る。
	古文の世界へ（古文1）	児のそら寝 用光と白波 絵仏師良秀	<ul style="list-style-type: none"> 古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。 説話のおもしろさを通して、古文の世界に親しむ。
《前期中間考査》			
6	漢文に親しむ（漢文1）	訓読の基本 格言／故事－3編	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の特色を知り、きまりを理解する。 格言・故事を読んで、漢文の世界に親しむ。
	現代を生きる（評論1）	未来をつくる想像力 無彩の色	<ul style="list-style-type: none"> 評論の内容を的確に理解し、筆者の考えを読み取る。 現代社会の様々な問題点について考える。
7	書く話す	調査して発表する	<ul style="list-style-type: none"> 得られた情報を検討し、根拠を明確にしてまとめる。 相手や目的に応じた方法を工夫して発表する。
	日々の思い（古文2）	徒然草 枕草子	<ul style="list-style-type: none"> 古文の表現に慣れ、文章の内容を読み取る。 作者のものの見方や感じ方について考える。
《前期期末考査》			
9	ことばがひらく世界（詩）	空をかついで 二十億光年の孤独 冬が来た	<ul style="list-style-type: none"> 詩に親しみ、詩を深く味わう力を養う。 比喩表現や、言葉のリズムのおもしろさを味わう。
	唐詩を味わう（漢文2）	唐詩一八首	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。 情景を読み取り、作者の心情を味わう。
	心の風景（小説2）	羅生門	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情や情景などを、読み味わう。 展開に即して、登場人物の心情の変化について考える。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
10	話す聞く	討論する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論題について、論拠を明確にして意見を述べる。 ・ 目的に沿って、的確に聞き取る。 ・ 目的を決め、相手の立場を尊重し、工夫して話し合う。
	うたの心 (古文3)	折々の歌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々に親しまれてきた詩歌を、表現の特色に注意して読み味わう。 ・ 詩歌に表れたものの見方、感じ方の伝統を知る。
	つながりを 生きる (随想2)	待つということ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個性的なものの見方や感じ方にふれ、豊かな感受性を養う。 ・ 社会や自然の中で生きる人間についての理解を深める。
		里山物語 りんごのほっぺ	
	話す聞く・ 書く	意見文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題について検討し、根拠を明確にして意見を述べる。 ・ 論理の展開や構成を工夫し、考えを文章にまとめる。 ・ 書いた文章について話し合い、考え方を豊かにする。
	論語のこと ば (漢文3)	論語八章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えをとらえる。 ・ 孔子の思想を通して、ものの見方考え方を豊かにする。
	珠玉のうた (短歌・俳句)	その子二十	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短歌・俳句に親しみ、その世界を読み味わう。
春嵐や		<ul style="list-style-type: none"> ・ 短歌・俳句の形式・リズム・表現方法を理解する。 	
《後期中間考査》			
1	古人の生き 方(古文4)	伊勢物語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の行動や心情を表現に即して読み味わう。
		平家物語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古人の生き方や考え方を知り、物語を楽しむ。
2	生を支える もの (小説3)	沖繩の手記から	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説を読んで、登場人物の考え方や生き方について考える。 ・ 極限状態における人間の姿について深く考える。
1	話す聞く・ 書く	情報を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様なメディアから、情報を的確に読み取る。 ・ 読み取った情報を多角的に比較してまとめる。 ・ 読み取ったことをもとに、考え方について話し合う。
	史話を楽し む (漢文4)	史話三編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話の展開に即して、内容を理解する力をつける。 ・ 登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話のおもしろさを味わう。
2	自分を見つ める (評論2)	美しさの発見 真の自立とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章構成や展開を確かめて評論を読み、筆者の主張を読み取る。 ・ 当然だと思うことを、改めて深く考える。
	話す聞く	実用文について 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の表現上の特色に注意して読む。 ・ 文章の内容や表現上の工夫を確認し、書き手の意図をとらえる。 ・ 自分の考えを深めるために話し合う。
《後期期末考査》			

地理歴史科「世界史A」シラバス

目 標 【学習指導要領】	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培う。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4	諸地域世界と文明	歴史へのいざない	自然環境と人類の活動が相互作用していることを理解する。
		人類の誕生と文明の発生	人類の出現と農耕・牧畜の開始について理解する。
		歴史の舞台…東アジア	中国古代帝国の成立と内陸アジア世界の形成について理解する。
		歴史の舞台…ヨーロッパ	地中海世界の形成と中世ヨーロッパ世界の展開について理解する。
5			
6		【前期中間考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
7	一体化に向かう世界	ルネサンスと宗教改革	ヨーロッパ近代の形成と特質について理解する。
		大航海時代	世界の一体化においてヨーロッパが果たした役割について理解する。
		絶対王政の時代	ヨーロッパの主権国家体制の成立について理解する。
		西ヨーロッパ諸国の展開	西ヨーロッパ諸国の絶対王政の展開について理解する。
		東ヨーロッパ諸国の展開	東ヨーロッパ諸国の啓蒙専制君主の改革について理解する。
		近代ヨーロッパと世界貿易	近代世界システムと覇権国家の交替について理解する。
		【前期期末考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
9	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動	産業革命	イギリスの技術革新が資本主義の確立に与えた影響について理解する。
		アメリカの独立	アメリカ合衆国の独立を成功させた思想について理解する。
		フランス革命	フランス革命が国民国家の形成に与えた影響について理解する。
		ナポレオンとウィーン体制	ナポレオン戦争とウィーン体制がヨーロッパに与えた影響について理解する。
		1848年の革命	自由主義と国民主義の進展と産業社会の到来について理解する。
		19世紀後半の英仏	英仏の自由主義的改革と産業社会の進展について理解する。
		19世紀後半の伊独	伊独の国家統一と工業化の進展について理解する。
		19世紀のアメリカ	フロンティアの西漸と南北戦争がアメリカ社会に与えた影響について理解する。
		中華帝国の動揺	清朝の衰退と西洋諸国の自由貿易要求への対応について理解する。
		東アジアの変動	世界の一体化と日本の近代化が東アジアの秩序に与えた影響について理解する。
東アジアの变革	日本の拡大と中国の新たな国民意識の高揚について理解する。		
		【後期中間考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
10	現代世界のあゆみ	急変する社会	地球規模で一体化した構造を持つ現代世界の特徴を理解する。
		帝国主義とアフリカ分割	帝国主義成立の原因と現代に与える影響について理解する。
		ヨーロッパ国際関係の緊張	第一次世界大戦勃発に至る国際関係の緊張について理解する。
		第一次世界大戦とロシア革命	帝国主義諸国の抗争と社会主義国家の誕生について理解する。
		ヴェルサイユ体制と国際連盟	ヴェルサイユ体制と国際平和機構の意義と問題点について理解する。
		戦間期の欧米と日本	アメリカ合衆国の繁栄と協調外交について理解する。
		世界恐慌とニューディール	世界恐慌への各国の対応と社会不安の増大について理解する。
		ヒトラーとムッソリーニ	ファシズムの台頭と第二次世界大戦の原因について理解する。
		日中十五年戦争の始まり	日本の国際的孤立と中国の抗日戦線形成について理解する。
		ヨーロッパでの戦争	第二次世界大戦の勃発と連合国の反撃について理解する。
		【後期期末考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
11			
12			
1			
2			

地理歴史科「世界史B」シラバス

目 標 【学習指導要領】	世界史の流れを理解し、文化や現代世界の特徴を考察することで歴史的思考力を高め、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身につける。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	基本的事項の定着をはかりながら、地理的条件や日本の歴史と関連付けて世界史の流れを理解させる。作業的な学習を取り入れ、生徒自身が主体となり自ら考える態度を養い、歴史的思考力の向上をはかる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	文明のはじまり 西アジア・地中海世界	人類の出現と文明の誕生	人類の特性と特徴を理解する。
		オリエント文明の形成	オリエントに興亡した民族・国家・文化の特徴を理解する。
		ギリシア世界とオリエント ローマ帝国と地中海世界	地中海を舞台に発展したギリシア文明の歴史を理解する。 地中海世界を統合したローマ帝国の歴史を理解する。
5	東アジア・内陸アジア世界の形成	中華文明の形成	中華文明の特色を理解する。
		秦漢帝国の形成	秦・漢の特色と匈奴について理解する。
		三国・南北朝時代と遊牧国家の動向	貴族文化の特色と拓跋国家の形成について理解する。
		隋唐帝国と東アジア諸民族の活動	隋・唐の特色を知り、東アジア世界の形成を理解する。
		【前期中間考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
6	ヨーロッパ世界の形成と変動	ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界	ビザンツ帝国の特徴とスラヴ民族への影響を理解する。
		西ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン民族の大移動と西ヨーロッパ封建社会の形成について理解する。
		ヨーロッパ世界の変動	封建社会の崩壊と主権国家体制の成立を理解する。
7	大航海時代 ルネサンス	大航海時代	新航路の開拓がヨーロッパを中心とした経済圏の形成に果たした意義を理解する。
		ルネサンス	ルネサンスが近代社会の形成に果たした意義を理解する。
		【前期期末考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
9 10	ヨーロッパ世界の拡大と大西洋世界	宗教改革	宗教改革が主権国家と産業社会の倫理形成に果たした意義を理解する。
		近代主権国家の成立	絶対王政とイギリス革命が主権国家体制確立に与えた意義を理解する。
		東方の大国	東欧諸国の特質と啓蒙専制君主の改革について理解する。
		ヨーロッパ人の進出とアメリカ・アフリカ	大西洋三角貿易の成立と世界の一体化について理解する。
11	ヨーロッパ・アメリカ諸国の発展	産業革命	産業社会の始まりと労働問題の発生について理解する。
		アメリカ合衆国の成立	アメリカ合衆国建国の理念が現代に与える影響について理解する。
		フランス革命とナポレオン	フランス革命とナポレオン戦争が国民国家の形成に与えた影響について理解する。
		国民国家の建設	自由主義と国民主義の進展と産業社会と国民国家の形成について理解する。。
		ヨーロッパの文化	17～19世紀のヨーロッパ文化と社会情勢との関わりについて理解する。
		【後期中間考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
12 1 2	二つの世界大戦と日本	第一次世界大戦とロシア革命	帝国主義諸国の抗争と社会主義国家の登場について理解する。
		ヴェルサイユ体制	ヴェルサイユ体制と国際協調体制の意義と問題点を理解する。
		アジアの独立運動と革命	アジアの民族運動と独立の機運について理解する。
		アメリカ合衆国の繁栄	アメリカ合衆国の繁栄と大衆社会の特質について理解する。
		世界恐慌とファシズム	世界恐慌による資本主義の変容とファシズムの台頭について理解する。
		第二次世界大戦	第二次世界大戦の概要と今日人類が直面する課題を展望する。
		【後期期末考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。

地理歴史科「日本史A」シラバス

目 標 【学習指導要領】	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際的に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	日本前近代の歴史をふまえ、近現代史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4	私たちの時代と歴史	運動会の歴史 東アジアとの交流	「運動会の歴史」をテーマに自ら調べることの意味をとらえ、レポート作成を通して歴史的思考力を養う。 前近代の日本と東アジアの交流を学習し、近現代史学習の準備をする。
5	大日本帝国の誕生	異国船の接近と幕藩体制の動揺	漂流民大黒屋光太夫はなぜ帰国できたのか考察する。
		蘭学と国学の普及	どのような学問・思想が各地に普及したかを考察する。
		開国と社会の変動	黒船は幕藩体制をどう揺るがしたのか考察する。
		尊皇攘夷から倒幕へ	薩摩藩と長州藩はなぜ手を結んだのか考察する。
		明治維新と新政府の成立	年貢半減はなぜ実現しなかったのか考察する。
		文明開化と復古	文明開化は暮らしをどう変えたのか考察する。
		地租改正と富国強兵	新政府は民衆に何を求めたのかどうか考察する。
		新政府の近隣外交	なぜ日本は朝鮮を開国させたのか考察する。
		民権思想と国会開設運動	自由民権運動はどう広まったのか考察する。
		私擬憲法と政党の結成	国民はどのような憲法を求めたのか考察する。
		【前期中間考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
		松方財政と秩父事件	経済の激変で、民衆はなぜたちあがったのか考察する。
		大日本帝国憲法の制定	憲法をなぜドイツに学んだのか考察する。
		初期議会と日清戦争	日本は朝鮮・台湾をどのように侵略したのか考察する。
	条約改正と日英同盟	条約改正が実現した背景を考察する。	
	産業革命と社会問題	産業革命は何をもたらしたのか考察する。	
	日露戦争	村や町の忠魂碑は何を物語るのか考察する。	
	重工業の発達と財閥の成立	日本の財閥はいつ頃発達したのか考察する。	
	欧米文化と伝統文化	近代文化はどのように発展したのか考察する。	
7	大日本帝国の展開	朝鮮の植民地化	大韓帝国はどのようにして廃滅されたのか考察する。
		大正デモクラシー	誰が桂内閣を倒したのか考察する。
		第1次世界大戦	第1次世界大戦に日本はなぜ参戦したのか考察する。
		第1次世界大戦後の世界	五・四運動はどのようにたたかわれたのか考察する。
		【前期期末考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。
		日本資本主義の成長	どのようにして成金はうまれたのか考察する。
		米騒動と社会運動	大戦後どのような社会運動がおこったのか考察する。
		大正デモクラシーと文化	大正期の文化はどのようなものか考察する。
		普通選挙法と治安維持法	大正デモクラシーの限界は何か考察する。
		侵略戦争への序幕	幣原協調外交はなぜ否定されたのか考察する。
		満州事変と「満州国」	日本はなぜ孤立の道を歩んだのか考察する。
		日中戦争	日本軍は中国で何をしたのか考察する。
		第2次世界大戦と日本	どのようにして国民を戦争に動員したのか考察する。
		戦時下の学問と文化	戦争は文化をどのように圧迫したのか考察する。
	太平洋戦争	「大東亜共栄圏」とはどのような世界か考察する。	
	戦争末期の国民生活	本土決戦体制はどのように準備されたのか考察する。	
	日本の敗戦	15年戦争は何をもたらしたのか考察する。	
	【後期中間考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。	
12	日本国憲法と現代の世界	戦後世界と日本	占領政治で日本はどのように変わったのか考察する。
		戦後アジアと日本・アメリカ	アジア諸国民は戦後をどう迎えたのか考察する。
		日本国憲法と民主教育	新憲法を生み出した力はなにか考察する。
		戦後改革の転換	松川事件の背景はなんだったのか考察する。
		経済復興と再軍備	朝鮮戦争で日本はどのように変わったのか考察する。
		サンフランシスコ平和条約	平和条約をめぐるどんな動きがあったのか考察する。
		新日米安全保障条約	新安保反対運動はなぜ盛り上がったのか考察する。
		高度経済成長と公害	東京オリンピックの頃生活はどのように変わったのか考察する。
		ヴェトナム戦争と沖縄	沖縄の日本復帰はどのように実現したのか考察する。
		低成長への転換	高度経済成長はなぜ終わったのか考察する。
		経済大国と国民生活	経済大国化は日本の社会をどう変えたのか考察する。
		世界の変動と国際関係	日本の大国化とともに国際関係はようになったのか考察する。
		湾岸戦争後の世界と日本	冷戦の終わりで世界は平和になったのか考察する。
		バブル崩壊と政界再編	1990年代の日本はなぜ大きく変わったのか考察する。
	21世紀の世界と日本	21世紀のアジアの中で日本はどんな役割を果たすのか考察する。	
	【後期期末考査】	*考査を通じ、学習の成果を確認する。	

地理歴史科「 日本史B 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	我が国の歴史の展開を、世界史的な視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追求する学習、地域に関わる学習を通じて、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。 史料に触れる機会を多く設定する。 身近な郷土の歴史を教材化して、興味・関心を喚起する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4 5	古代国家の形成と貴族文化の誕生	原始社会の生活と文化	自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目し、更新世の日本と縄文文化の特長を理解する。
		農耕社会の形成と大陸文化の摂取	弥生文化と小国家の形成過程を理解する。古墳文化の形成が大陸と密接に関連していることに注目する。
		律令国家の形成と古代文化の展開	国家の形成と律令体制の確立の過程、隋・唐など東アジア世界との交流に着目する。古代国家の展開と天平文化の特色について理解する。
		摂関政治と文化の和洋化	摂関政治の特徴を知り、武士の台頭に注目し、アジアの中での国家の推移と文化の和様化を理解する。
		【前期中間考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
6	武家社会の形成と生活文化のめばえ	中世社会の成立	公武の関係や中国との関わりに着目し、武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など新しい文化に注目する。
		武家社会の形成と東アジア	日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に注目し、中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽など、文化の動向について理解する。
7 9 10	近世社会の形成と庶民文化の展開	ヨーロッパ文化との接触と国内統一	ヨーロッパ世界との接触とその影響に注目し、織豊政権と江戸幕府の成立過程を理解する。
		幕藩体制の成立	鎖国とその後の対外関係、支配体制と身分制度や儒学の役割に着目し、幕藩体制の特質について理解する。
		【前期期末考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
		近世社会の発達と町人文化	幕藩体制下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目し、町人文化や農村の生活文化を理解する。
		近世社会の動揺と庶民文化の発達	欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想・産業の新たな展開に着目し、幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について理解する。
11 12	近代国家の形成と国民文化の発展	開国から明治維新へ	開国・幕府の滅亡の動きに注目し、明治維新の性格について考察する。
		立憲政治の形成と国民文化	欧米文化・思想の影響や国際環境の変化に着目し、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの特長を理解する。
		日本の近代化と東アジア デモクラシーと第一次世界大戦	条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア・欧米諸国との関係に着目し、立憲国家の展開を理解する。 デモクラシー思想の普及に注目し、民主主義の発展過程について理解を深める。
		【後期中間考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
		激動する世界と日本	アジア近隣諸国との関係に注目し、アジア太平洋戦争と日本の関係について考察する。戦争が国民生活にどのような影響を与えたのか考察する。
1 2	現代の日本と世界	占領と国内政策	占領政策と諸改革、新憲法の成立過程に注目し、我が国の再出発について考察する。
		国際社会への復帰と高度経済成長	講和条約の締結と独立の回復から経済の発展と国民生活の向上について考察する。
		石油ショックと低成長の時代	国際情勢に注目し、それが我が国の政治・経済にどのような影響を与えたのか考える。
		新しい国際秩序と日本の課題	国際理解の推進と日本文化の特色、我が国の国際貢献の在り方などに注目し、現代世界の動向と日本の進むべき未来について深く考察する。
		【後期期末考査】	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。

地歴公民科「 地理A 」シラバス

目標 【学習指導要】	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	基礎的・基本的事項の理解をはかるため、指導内容の精選に努める。できるだけ身のまわりの地理的事象を題材にしたり作業的な学習を取り入れたりして、地理に興味・関心をもたせるように努める。地図・統計を活用し、地理的な見方・考え方を身につけさせる。

月	単元／章	学 習 項 目	目 標／学 習 活 動
4 5	第Ⅰ編現代世界の特色 第1章地球儀や地図からとらえる現代世界	1 観光による結びつき	観光という視点から地域や国家間のつながりを理解させる。
		2 地域間の結びつき	交通・インターネット・貿易の構造を学ばせ、地域間の結びつきやその変化、現代の特質を理解させる。
		3 国と国の結びつき	国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。
		4 地球儀と地図	季節と時差、地球儀とおもな図法による世界地図、現代の地図とGISを学習する。
		中間考査	
6 7	第2章世界の生活・文化の多様性	1 人々を取りまく地形	世界の大地形について、平野の小地形を学習して地形環境が人々の生活に及ぼす影響を理解させる。
		2 人々を取りまく気候	自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習する。
		3 人々を取りまく 経済と文化	経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解させる。
		まとめと復習	白地図ワーク
9		4 世界各地の生活・文化 東・南・東南アジア	文化の多様性、環境と生活・産業の関わり、経済発展の要因、日本とのかかわりを理解させる。
10		西・中央アジア	宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解させる。
		期末考査	
		アフリカ	経済や民族紛争の歴史的背景を理解させ、経済発展を始めたアフリカと日本の関係について考察させる。
		ヨーロッパ	この地域が文化的統一性を持ち、各地の環境に根ざした多様な生活・文化を有することを理解させる。
11		アングロ・ラテンアメリカ	自然環境や資源、歴史などが多様な文化・産業に結びつき、地域性をつくっていることを理解させる。
		オセアニア	オセアニアの自然環境と生活との関連を理解させる。
		中間考査	
12 1	第3章地球的課題の地理的考察	1 環境問題	地球環境問題が人類が地球的視野で取り組むべき問題であることを理解させる。
		2 資源・エネルギー問題	資源の偏在性、有限性を理解させ、持続可能な開発と国際協力の必要性について考察させる。
		3 人口・食料問題	人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題等の関連性を理解し日本などの先進国の課題を考察させる。
		4 居住・都市問題	人口集中による諸問題、途上国と先進国間の違いを理解させ、解決の方策や課題を考察させる。
		まとめと復習	相互に関連する地球的課題
1 2	第Ⅱ編生活圏の課題第1章地図は生活必需品	1 身のまわりの地図	地図を用いた情報伝達の方法を学習する。
		2 地形図の読み方	地形図の読図に必要な基礎的知識を学習する。
	第2章自然環境と防災	1 日本の自然環境の特色	日本の自然環境や、人間生活と自然災害との関わりについて理解させる。
		2 自然災害の事例	日本の自然災害の特徴や地域性、防災への取り組み方や課題を理解させる。
		3 日本の自然災害への取り組み	自然災害へのハード対策とソフト対策、自助・共助・公助の考え方や訓練の重要性を理解する。
	第3章生活圏の諸課題と地域調査	1 生活圏の諸課題	生活圏の地図化と地域調査の方法について学習し、身近な地域の地理的諸課題を見いださせる。
		2 東京都青梅市の地域調査	青梅市中心商店街の地域調査を例に諸調査の方法と着眼点、分析・まとめ・発表の方法を学ばせる。
期末考査			

地理歴史科「 地理B 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	基本的な事項・事柄を精選し、地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意し、地域性を追究する過程で歴史的背景・政治・経済・生物・地学的な事象なども必要に応じて扱う。また各項目の中にできるだけ日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	地理情報と地図	現代世界の地図	現代の地図や身近な地図の有用性に気づく。
		地図の種類とその利用	現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。
		地図の活用と地域調査	生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身につける。
	自然環境	世界の地形	大地形と小地形を考察し人間生活との関わりを考える。
世界の気候		気候区の特徴と人間生活への影響を考える。	
日本の自然の特徴と人々の生活		日本の自然の特徴と自然災害の特徴を理解する。	
環境問題		環境問題の事例を考察し、日本の環境問題を考察する。	
5		前期中間考査	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
6 7	資源と産業	産業の発達と変化	産業の発達と変化を自然環境、グローバル化から考察する。
		世界の農林水産業	農林水産業の世界と日本の課題を考察する。
		食糧問題	食糧自給の地域的かたよりを理解し事例を考察する。
		世界のエネルギー・鉱産資源	エネルギー資源の利用、分布、鉱産資源の分布を考察する
		資源・エネルギー問題	世界の資源、エネルギー資源の課題、日本の課題を考察する。
		世界の工業	鉱業の発達や立地、世界の鉱業の現状と課題、日本の課題を考察する。
		第3次産業	第3次産業の発達、観光業の特色を考察する。
		世界を結ぶ交通・通信	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。
9		現代世界の貿易と経済圏	世界貿易、経済圏、日本の貿易や芸材の現状と課題を考察する。
		前期期末考査	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
10	人口村落都市	世界の人口	世界人口の分布や特色、人口構成、人口転換を考察する。
		人口問題	発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。
		村落と都市	村落・都市の立地や発達、機能、日本の都市の特徴を考察する。
		都市・住居問題	世界・日本の都市、居住問題
11	生活文化、民族・宗教	生活文化	衣食住の分布や地域的差異、画一化について考察する。
		民族と宗教	民族、宗教の分布、特徴、生活との関わりを考察する。
		現代世界の国家	国境と領域のきまりや国家の分類について考える。
		民族・領土問題	民族、領土問題、民族の強制について課題を考察する。
11		後期中間考査	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。
12 1	現代世界の地誌的考察	現代世界の地域区分	地域概念、地域区分の目的、意義を理解する。
		東アジア	中国、韓国
		東南アジア	東南アジアの自然、歴史、文化民族、工業
		南アジア	地形、気候、インドの農業、工業
		西アジアと中央アジア	イスラームの生活文化、公益と都市、資源と産業
		北アフリカとサハラ以南のアフリカ	中近東と中南アフリカ文化
		ヨーロッパ	ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業、工業
		ロシア	ロシアの自然環境、歴史、社会の変化、日本との結びつき。
		アングロアメリカ	アメリカ合衆国の自然環境、産業、カナダとの結びつき。
		ラテンアメリカ	ラテンアメリカの自然、文化、農業、工業と生活。
		オセアニア	オセアニアの移民の歴史、多文化社会、アジアとの結びつき。
2		現代世界と日本	現代世界における日本の地理的課題、解決の方向性など。
		後期期末考査	* 考査を通じ、学習の成果を確認する。

公民科「 現代社会 」シラバス

目標 【学習指導要】	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	生徒が興味関心をもって意欲的に授業に取り組むことができる教材を精選する。タイムリーな視聴覚教材を使って生徒に考え、発表させる機会をつくる。基礎的知識・理解が定着するように、定期考査などを工夫する。

月	単元／章	学 習 項 目	目 標／学習活動			
4	1わたしたちの生きる社会第1章地球環境問題	破壊される地球(1)	地球環境問題の現状について理解させ、これらが身近な問題であることに気づかせる。			
		破壊される地球(2)				
		地球環境問題への取り組み				
5	第2章資源・エネルギー問題	かぎりある資源	資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。			
		エネルギーの開発と利用				
		人口問題と食料・水資源				
		資源循環型社会				
6	第3章生命科学と情報技術の課題	現代医学が問う生死のあり方	生命科学や情報技術の発達と、それらがどのような課題をもつか考える。			
		脳死と臓器移植				
		遺伝子技術と生命				
7	2現代の社会と人間第1章自分らしく生きる	高度情報化社会と情報倫理	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。			
		青年期とは				
		自己形成の課題(1)				
		自己形成の課題(2)				
		職業生活と社会参加				
		哲学と人間		先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。		
		第2章人間としてよく生きる				
		宗教と人間、科学と人間				
		9		第3章日本人としての自覚	中間考査	先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。
					自由と幸福	
人間性の回復と主体性の確立						
10	第3章日本の政治機構と政治参加	他者の尊重	日本人の古代からの伝統的な思想と外来思想の特徴について理解する。			
		古代日本人の思考				
		外来思想の受容と伝統				
		2現代の社会と人間第1章自分らしく生きる現代の民主政治と日本国憲法第1章現代国家と民主政治		民主政治の基本原則	世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させ、主権者としての参政のあり方について考えさせる。	
				法の支配と法の意義・役割		
				民政治のしくみと課題		
				世界のおもな政治制度		
		9		第2章日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の制定	日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加を理解させ、民主政治にける主体的な人間のあり方を考えさせる。
					自由生きる権利	
					期末考査	
平等に生きる権利						
12	3現代の経済社会と国民生活第1章現代の経済社会	社会権と参政権・請求権	日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加を理解させ、民主政治にける主体的な人間のあり方を考えさせる。			
		人権の広がりとお公衆の福祉				
		平和主義と我が国の安全、今日の防衛問題				
		政治機構と国会				
12	第2章日本の経済的特質と国民生活	行政権と行政機能の拡大	民主政治のもとでの国民主権のあり方と法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。			
		公正な裁判の保障				
		地方自治と住民福祉				
		政党政治と選挙制度				
		世論と政治参加				
		経済社会の変容		市場経済のしくみや金融の役割、財政の役割を理解し、日本の財政の課題について考えさせる。		
		3現代の経済社会と国民生活第1章現代の経済社会				
		市場のしくみ				
		現代の企業				
		国民所得、経済成長と国民の福祉				
経済成長と国民の福祉						
金融の役割						
日本銀行の役割						
税制の役割と租税						
日本の財政の課題						
12	第2章日本の経済的特質と国民生活	日本経済の歩み(1)	戦後日本経済のあゆみを概観させる。			
		日本経済の歩み(2)				
		中小企業と農業				
		中間考査				
1	4国際社会と人類の課題	消費者問題、公害の防止と環境保全	近年の雇用や労働の動向を考察させる。			
		労働問題と労働者の権利				
		今日の労働問題				
		社会保障の役割				
1	4国際社会と人類の課題	国際政治の特質	社会保障制度の意義や役割を理解させ、医療・介護・年金などの保険制度の現状と課題を理解させる。			
		国際連合と国際協力				
		第二次世界大戦後の国際社会				
		人権・民族問題				
2	第2章国際経済の動向と国際協力共に生きる社会をめざして	重た競争から重縮へ	主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考えさせる。			
		国政平和と日本の役割				
		貿易と国際収支				
		外国為替市場のしくみ				
2	第2章国際経済の動向と国際協力共に生きる社会をめざして	第二次世界大戦後の国際経済	貿易、国際収支の仕組みを理解させ、国際協力における日本の役割を考えさせる。			
		今日の国際経済				
		発展途上国の諸課題				
		国際協力と日本の役割、WTO体制と発展途上国				
2	第2章国際経済の動向と国際協力共に生きる社会をめざして	期末考査				
		期末考査				

公民科「倫理」シラバス

目 標 【学習指導要領】		人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】		古今東西の先哲の思想のこぼを読んだり絵画や写真を視聴したりして基本的な内容を理解する。授業での学習物（ノート、レポート、ワークシート等）と定期考査によって学習の意欲・態度・表現・理解を評価する。	
月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	青年期の課題と自己形成	青年期の意義	青年期の位置づけや青年期の特徴について自らの経験を取りあげながら理解する。
		青年期の課題と生き方	青年期の課題を主体性の確立、自己理解をもとに考え、幸福と生きがいのあるあり方について自ら考える。
5	人間としての自覚	哲学と人間	「人間とは何か」の問いや哲学することについて考え、ギリシャの思想、中国の思想の基本的な内容を理解する。 中間考査
		宗教と人間	宗教のとらえ方について考え、キリスト教、イスラーム、仏教などの基本的な内容を理解する。
6		芸術と人間	美しいものへの感動について理解させ、芸術の意義について考えさせる。
7	国際社会に生きる日本人の自覚	日本人の精神風土	「おのすから」の働きや風土、島国「むら」、八百方の神など、古くからの日本人のものの考え方、宗教観、倫理観について、具体例をもとに理解する。 期末考査
		外来思想と日本の伝統	日本に取り入れられ展開した仏教や儒教の基本的な内容を歴史的背景を関連して理解する。
		西洋思想と日本人の近代化	西洋の近代思想の受容の仕方や西洋の近代思想と日本の伝統思想をどのように統合しようとしたかについて、代表的な先哲の思想家と行動に焦点をあてて理解する。
9		国際社会に生きる日本人の自覚	日本国憲法の原則と戦後思想の動向、国際社会での日本人の貢献について理解する。
10	現代を生きる人間の倫理	人間の尊厳	現代の特質を今の状況を捉えなおしながら理解する。ルネサンス、合理主義思想、啓蒙思想の特徴を思想家の言葉をもとに理解する。
11		民主社会の倫理	ヘーゲルの人倫の思想、功利主義、社会主義思想、プラグマティズムの思想の基本的な内容を理解する。 中間考査
12		新たな人間像の模索	現代の実存哲学、フランクフルト学派、構造主義の思想の基本的な内容を理解し、主体性の回復をもとめる現代の潮流について考える。
		自然や科学技術と人間のかかわり	近代の機械的自然観に対して、自然との調和を図る自然観、日本的な自然観について理解する。
		民主社会の成熟のために	差別と偏見のない社会のあり方について考え、マザーテレサやボランティア等の活動をもとに社会参加と奉仕について理解する。
1	現代の課題を考える	生命	生命科学の発達と生命倫理の課題について理解する。
		家族	少子高齢社会における家族関係の特質について理解し、その課題について考える。
		地域社会	地域社会のコミュニティの実態を理解し、その課題について考える。
		情報社会	情報社会の特質について理解し、その中で生きるわたしたちの課題について考える。
		文化と宗教	文化と宗教が混ざり合っていることを具体的にとらえ、多文化主義と自民族中心主義の考え方を理解する。
		2	環境、国際平和と人類の福祉

公民科「政治・経済」シラバス

目 標 【学習指導要領】	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	新聞記事などの資料を読んだり具体的な時事に関するビデオを鑑賞することで、現代の諸事象を理解し、課題について考えさせる。授業での学習物（ノート、レポート、ワークシート等）と定期考査によって評価する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	現代の政治	民主政治の基本原則	社会契約説の考え方を理解し、法の支配の歴史、現在の民主主義の特徴、世界の主な政治体制について理解する。
5		日本国憲法の基本原則	日本国憲法の成立過程や基本原則について理解する。
6			中間考査
		日本の政治機構	国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみについて基本的な理解を深める。
7		現代政治の特質と課題	世論とマスコミ、選挙、政党政治と政治参加のあり方について理解を深める。
9		現代の国際政治	現代の国際政治の動向や国際関係を理解し、環境エネルギー問題の課題や日本の役割について考える。
			期末考査
10	現代の経済	現代の資本主義経済	資本主義経済の特徴とその発達の歴史、経済思想のあゆみについて理解する。
11		現代経済のしくみ	三つの経済主体と経済活動の流れ、市場経済における需給関係、景気変動と物価、金融政策、財政政策について理解し、経済の諸課題を考える。
12		日本経済の発展と産業構造の変化	高度経済成長からバブル経済破綻後の経済状況まで理解し、日本経済の今後の課題について考える。
			中間考査
1		福祉社会と日本経済の課題	公害、消費者問題、農業・食糧問題、労働問題、社会保障と福祉に関する日本の状況について理解し、その課題について考える。
		国民経済と国際経済	貿易、国際経済における日本の役割について考える。
		現代社会の諸課題	少子高齢社会における諸問題を理解し、社会保障のあり方について考える。
		若者と取りまく労働環境、雇用環境の現状を理解し、近年のそれらの変化にどう対応するかを考える。	
		国際社会の諸課題	環境にやさしいエネルギー、化石燃料を含めた持続可能なエネルギーの利用のあり方について考える。
			経済援助のあり方やその歴史的経緯、現状について理解する。パレスチナ問題など国際紛争の現状を理解し、その解決へ向けて必要な方策を考える。
2			期末考査

数学科「数学Ⅰ」シラバス

目標 【学習指導要領】	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	生徒の学力には個人差があるため、個々の生徒の理解に応じた内容、問題の精選、進度に留意する。生徒各自が少しでも数学Ⅰに対して関心を深めることができ、さらに高い知識、技能の修得を目指すよう指導する。各単元で精選した重要事項、重要問題、基本的計算能力の向上の徹底を図る。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容		
4	1章 数と式 1節 整式	1 文字を使った式	文字を含んだ式の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。		
		2 整式	単項式、単項式の次数、係数、多項式、項、定数項、整式、同類項、整式の次数、 n 次式など、式についての用語の意味を理解し、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。		
		3 整式の加法・減法	整式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができる。		
		4 整式の乗法	指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて整式を展開することができる。		
		5 乗法公式	乗法公式について理解し、乗法公式が利用できる。また、式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見直しをもって整式を展開することができる。		
		6 因数分解	分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、因数分解の公式が利用できる。また、式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見直しをもって因数分解することができる。		
5	2節 実数	1 数の分類	自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解して、それらを区別できる。さらに、実数について理解するとともに、数を拡張することに興味をもつ。		
		2 根号を含む式の計算	根号を含む式の基本的な計算をすることができる。また、分母の有理化について理解し、それを活用する能力を伸ばす。		
		問題	問題演習によりその節の内容の復習・確認を行う。		
		3節 方程式と不等式	1 1次方程式	1次方程式について理解し、1次方程式を解くことができる。	
		2 不等式	不等号の意味を理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができる。		
		3 不等式の性質	不等式を調べることによって、不等式の性質を理解する。		
4 不等式の解き方	不等式の性質を用いて不等式を変形し、解くことができる。				
5 不等式の利用	1次不等式を利用して、文章題を解決することができる。				
6 2次方程式とその解き方	2次方程式について理解し、平方根の考え、因数分解、解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。				
6	2節 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	1 関数	関数の概念の理解を確実にし、また、1次関数のグラフをかきことができる。		
		2 2次関数とそのグラフ	具体的な事象から、2次関数の概念を理解して、2次関数のグラフの特徴を学び、そのグラフをかきことができる。また、変形し、そのグラフを利用できる。		
		問題	問題演習によりその節の内容の復習・確認を行う。		
		2節 2次関数の値の変化	1 2次関数の最大値・最小値	2次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し、それらの値を求めることができる。また、それを利用して文章題を解決することができる。	
		2 2次関数のグラフと2次方程式	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフと x 軸の共有点の座標を求めることができる。また、式の見方を豊かにするとともに、グラフを活用することのよさを認識する。		
		3 2次関数のグラフと2次不等式	2次関数のグラフと2次不等式の解の関係を理解し、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。		
7	前期中間考査	問題			
		10	3章 三角比 1節 鋭角の三角比	1 三角形	相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができる。また、三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができる。
		2 タンジェント		直接測ることができない長さなどを、相似な直角三角形の辺の比を使って求めることを通して、正接の意味を理解する。	
		3 サインとコサイン		正弦、余弦の意味を理解する。また、 30° 、 45° 、 60° の三角比の値を求めることができる。	
		4 三角比の利用		三角比の表の利用の仕方学習し、三角比の表を活用して三角比の値を求めることができる。また、三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより、三角比の有用性を認識する。	
		5 三角比の相互関係		三角比の相互関係について理解し、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。また、 $90^\circ - A$ の三角比の値を求めることができる。	
問題					
11	2節 三角比の応用	1 三角形の面積	与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる。		
		2 正弦定理	三角形の角の正弦の値と対応する辺の長さとの関係、さらに外接円の半径との関係調べて、正弦定理を理解するとともに、図形の計量の際に正弦定理を有効に活用することができる。		
		3 余弦定理	三角形の角の余弦の値と辺の長さとの関係を調べて、余弦定理を理解するとともに、図形の計量の際に余弦定理を有効に活用することができる。		
		4 三角比と座標	座標を用いて三角比を考え、鈍角や 0° 、 90° 、 180° まで拡張した三角比の意味を理解する。		
		5 三角比の相互関係	角が鈍角の場合も、三角比の相互関係が成り立つことを理解する。また、 $180^\circ - \theta$ の三角比の値を求めることができる。		
		6 鈍角の三角比と計量	角が鈍角の場合も、三角形の面積の公式、正弦定理、余弦定理が成り立つことを確認する。また、空間図形において、その中に含まれる三角形に着目し、三角比や定理等を有効に活用して、計量の問題を解決することができる。		
12	4章 集合と論証 1節 集合と論証	1 集合	部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。		
		2 命題と集合	命題の真偽と反例を考慮することができる。また、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連づけて理解する。		
		3 命題と証明	命題の逆、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。		
		問題			
		1	5章 データの分析 1節 データの分析	1 データと度数分布表	データの特徴をとらえやすくするために、度数分布表、ヒストグラム、相対度数分布表に表すことができ、データを整理する有用性に気づく。
		2 代表値		データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、それを平均値、中央値、最頻値などの代表値で表すことができる。	
3 散らばりぐあいを表す値	データの分布の特徴を表す値として、代表値だけでは不十分であることから、中央値をもとにした四分位数、四分位範囲を理解する。また、それを箱ひげ図に表すことができる。				
4 分散と標準偏差	データの分布の特徴を表す値として、代表値だけでは不十分であることから、平均値をもとにした分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。				
5 相関関係	2つの変量の組の値を散布図に表すことによって、2つの変量の相関関係が調べられることを理解する。				
6 相関係数	散布図による相関関係を相関係数により数値化し、相関の強さが表せる有効性を認識する。				
2	課題学習	紙の大きさと黄金比 最も売り上げが高くなる値段は？ 富士山はどこから見える？ ホットコーヒーとアイスコーヒーの 売れ方			
		後期期末考査			

理科「 科学と人間生活 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	身近な事象・現象に関する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深めるとともに、科学技術の在り方について市民が意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を育成する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	序編 科学技術の発展	私と社会と未来の科学	科学とはどういう学問かを知り、なぜ科学を勉強するか考える。 情報と交通とくらしの関わりについて考える。 「未来への課題」について考える。
5	1編 生命の科学	微生物とその利用	さまざまな微生物の存在に興味・関心を持つ。 身近に微生物が存在することを学ぶ。
		中間考査	
6		微生物とその利用	微生物と人間生活のかかわりについて興味・関心を持つ。 発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。
7	2編 物質の科学	衣料と食品	綿や麻などの植物繊維がセルロースからできていることなどを学ぶ。 デンプンの分子は、多数のグルコースが縮合重合した高分子化合物であることなどを学ぶ。 タンパク質は多数のアミノ酸分子が結合してできていることなどを学ぶ。
		期末考査	
9		衣料と食品	食品は微生物によって腐敗したり、空気や光で劣化することを理解する。 腐敗や劣化を防ぐ方法や食品添加物(保存料・調味料・着色料)について考える。
10	3編 光や熱の科学	光の性質とその利用	ニュートンによる太陽光のスペクトル観察を通して、光の波長とスペクトルとの関係について理解する。 物の色がどのようにして生じているかについて、光の3原色や人の視覚と関連づけて理解する。 電磁波という広い概念で、可視光線や、赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。
11		中間考査	
12	4編 宇宙や地球の科学	身近な自然景観と自然災害	身のまわりの自然景観にはどんなものがあるか、どんな成り立ちがあるのかを理解する。 断層運動の際に地震が発生すること、地震を伴う変動はプレート境界に集中することを理解する。 火山灰放出、火砕流、溶岩流出など噴火のいくつかの形態について、噴火の順序や各々の様子について理解する。 自然災害とはどういう現象か、私たちの生活にどんな影響を及ぼすのか、対策にはどんなものがあるか、理解する。
1		期末考査	
2			

理科「 物理基礎 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	物理学が日常生活とどのように関連しているかを知り、物理学の基本的な原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付けるとともに、探究する能力や態度を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	中学理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を図り、科学的な思考力や判断力を育成する。また、身近な生活や社会と関連させながら実験・観察などを行うことで、物理学の関心を高めるとともに、探求の能力・態度を習得させるよう努める。

月	単元／章	指導／学習項目	指導／学習内容
4 5	1編 物体の運動とエネルギー	直線運動の世界	身近な物理現象について、物質の質量の測定と表し方、分析の手法を学ぶ。また、物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解する。
		力と運動の法則	物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。
			物体に様々な力がはたらくことを学び、物体にはたらく力のつり合いを理解する。
			運動の三法則を理解する。
			物体にはたらく重力について学ぶ。
			物体が落下する際の運動の特徴及び物体にはたらく力と運動の関係について理解する。
	中間考査		
6 7	仕事とエネルギー		物体の運動から、静止摩擦力と動摩擦力について学ぶ。
			流体中にある物体に流体からはたらく力について理解し、浮力を定量的に扱えるようにする。
			仕事について、移動の向きを考慮に入れて仕事を求められるようにする。仕事の原理と仕事率について理解する。
			中学校での学習を発展させ、位置エネルギーについて理解する。
			中学校での学習を発展させ、運動エネルギーについて理解する。
	期末考査		
8 9	仕事とエネルギー		中学校の学習を発展させ、力学的エネルギーの保存の法則について、仕事と関連させて理解する。
			弾性力がはたらくときの力学的エネルギーや、力学的エネルギーが保存されない場合などについて理解する。
10 11	2編 さまざまな物理現象とエネルギー	熱	ブラウン運動などの観察を通して、原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。
			物質の三態変化、及びそのときの熱の出入りについて、原子・分子の熱運動の立場から理解する。
			熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようにする。
		波	音に限らず、身のまわりには多くの波動現象が存在することに気付き、波の現象についての基本的な性質や表し方を理解する。 波形を表す用語、振動のようすを表す用語を学習する。また、波の速さと振動の関係について理解する。 音の高さ、大きさ、音色について、波形との関係を理解する。また、音が伝わる速さや、うなりについて考察し、音が波として伝わることを理解を深める。 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。
	中間考査		
12	電気		帯電体どうしが及ぼし合う静電気力の観察などを通して、帯電は電子の過不足によって生じること、回路を流れる電流の正体は移動する自由電子の流れであり、電流の大きさは単位時間に導線の断面を導線を通る電流の大きさは、導線の長さや断面積、材質によって異なることが分かる。
			電流による発熱のしくみを知り、電気エネルギーの消費と、電圧や電流との関係を理解する。
			電気ブランコの観察や、簡単なモーターの制作などを通して、電流が磁界から力を受けること、また、モーターがこの力を利用して物体を動かすことを知る。
			コイルと電磁石を用いた実験などを通して、電磁誘導、及び発電のしくみを理解する。
1 2	エネルギー		現代の社会生活のなかで、電磁波がさまざまな形で利用されていることを学ぶ。 エネルギーにはさまざまな形があること、ほかのエネルギーに形を変えること、また、エネルギーの形が変化しても、その総量は変化しないことを学ぶ。 電気エネルギーは、私たちの生活を支える重要なエネルギーの形であることを理解する。
			α 線、 β 線、 γ 線などの放射線の特徴と、その利用及び安全性について理解する。
	期末考査		

理科「 化学基礎 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	中学理科との関連を考慮しながら、基本的な概念の形成を図るとともに、科学的な思考力や判断力を養成する。 身近な自然の事物・現象の中から事例を取り上げ、観察、実験を通して理解を進めるとともに、科学的に調べる能力や考える態度を育成する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	序編 化学と人間生活	物質の製造 物質の利用	金属の利用の歴史から、物質について学ぶ学問としての化学に興味を持つ。 セラミックス・プラスチック・繊維など身近な生活と化学の関係を考える。 食糧の確保・食品の保存・洗剤などに化学の成果が活かされていることを理解する。
5	1 編 物質の構成	物質の成分と構成元素	純物質・混合物の性質を学び、分離と精製を考える。 成分としての元素について学び、元素記号や周期表について理解する。 物質の三態と状態変化について考え、熱運動と絶対温度について理解する。
6		中間考査	
6		原子の構造と元素の周期表	原子の構造、原子番号、質量数について理解する。 電子殻と最大収容電子数、電子配置、価電子について理解する。 元素の周期律と周期表について理解する。
7		化学結合	イオンのでき方とイオン結合について理解する。 共有結合による分子の形成について理解する。 分子式、組成式、電子式、構造式について理解する。
9		前期期末考査	
9		物質と化学結合	金属と金属結合のでき方について学ぶ。
10	2 編 物質の変化	物質と化学反応式	原子量・分子量と・式量について学び、物質量の考え方を理解する。 化学反応式の書き方を学び、量的関係についても考える。 溶液の濃度について理解する。
11		酸と塩基	酸と塩基の性質を学び、定義を理解する。 水素イオン濃度とpHの表し方について理解する。
12		中間考査	
12		酸と塩基	中和反応と塩の生成について理解する。 塩の分類や水溶液の性質について理解する。 中和滴定について理解する。
1		酸化還元反応	酸化と還元を酸素・水素・電子について理解する。 酸化剤と還元剤について学ぶ。 イオン化傾向について理解する。
2		後期期末考査	

理科「 生物基礎 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	生物や生物現象への関心を高め、観察・実験などを通して科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	中学理科との関連を考慮しながら、基本的な概念の形成を図るとともに、科学的な思考力や判断力を育成する。身近な生活と関連させながら実験・観察を行い、探求の方法を習得させるよう努める。

月	単元／章	学習項目	学習内容
4 5	1章 生物の特徴 1節 生物の共通性と多様性 2節 細胞とエネルギー	多様な生物とその祖先	生物は形態や生殖などのさまざまな特徴を持ち、多様性があることと共通する特徴があることを学ぶ。
		細胞の構造と働き	細胞が独自の機能をもついろいろな細胞小器官から成り立っていることを理解する。
		代謝とエネルギー	生物の体内では、常に代謝が行われ、エネルギーの移動が伴うことを学ぶ。
		酵素	酵素はタンパク質からできており、触媒として働き、様々な生命現象と関わっていることを理解する。
		光合成	光合成は光エネルギーを化学エネルギーに変換して無機物から有機物を合成する反応であることを学ぶ。
		呼吸	呼吸は有機物からエネルギーを解離して、ATPを生成する反応であることを知る。
		ミトコンドリアと葉緑体の起源	原核生物から真核生物が誕生した過程を細胞内共生説から学ぶ。
		中間考査	
6 7	2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配	ゲノムと遺伝子	ゲノムとは何かを理解し、遺伝子の本体がDNAであることを知る。
		DNA研究の歴史	現在のゲノム研究につながる過去のDNA研究について把握し、どのようにしてDNAが遺伝情報を担っている物質であるとわかったかを理解する。
		DNAの構造	DNAの構造は、互いに相補的な鎖からなる二重らせん構造をしており、四つの構成要素からなることを理解する。
		細胞分裂とDNA	体細胞分裂時の染色体の状態、細胞周期とDNA量の変化を理解する。
		遺伝子とタンパク質	生体のタンパク質は遺伝子によりアミノ酸配列が決定されることで合成されることを理解する。
		期末考査	
8 9	3節 遺伝情報とタンパク質の合成	タンパク質合成	タンパク質の合成は、DNA→mRNA→アミノ酸の順序で行われることを理解する。
		遺伝子の発現	細胞では、必要とするタンパク質が発現するよう遺伝子によって調節されていることを理解する。
10 11	3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫	体内環境と恒常性、体液とその働き、体液の調節～腎臓と肝臓～	セキツイ動物では、体液によって体内環境を一定に保っていることを知る。
		自律神経系による調節	自律神経系では、交感神経と副交感神経が対抗的に働き器官の働きを調節していることを学ぶ。
		ホルモンによる調節	ホルモンは、内分泌腺でつくられ、血液により標的器官へ運ばれ作用することを知る。
		自律神経とホルモンによる調節	恒常性には、自律神経がホルモンとともに重要な役割を果たしていることを理解する。
		生体防御と免疫	生体内には病原菌などの異物を認識し、排除して体内環境を保つしくみがあることを理解する。
		自然免疫のしくみ、獲得免疫のしくみ、ヒトと免疫	生体防御には自然免疫と獲得免疫があり、マクロファージや樹状細胞、リンパ球などが関わっていることを理解する。
		中間考査	
12	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム	生物と環境のかかわり	植物の生活と環境との間にどのような関わりがあるか把握する。
		植生とその構造	陸上にはさまざまな植生があることや森林には階層構造があることを学ぶ。
		遷移と極相	陸上の植生は、つねに一定ではなく、時間をかけて移り変わっていく過程を理解する。
		バイオームの分布	気温と降水量の違いによって、地球上には様々なバイオームが成り立つことを理解する。
1 2	3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全	生態系	生態系とは、生物と非生物的環境を一つのまとまりとしてとらえたものであることを知る。
		エネルギーの流れと物質循環	生態系では、物質循環とともにエネルギーが流れていることを理解する。
		生態系のバランス	生態系のバランスは常に変動していること、また変動しても回復する復元力をもっていることを理解する。
		人間生活と環境の変化	地球を一つの生態系とみた場合、人間もその構成員となり、人間が環境に影響を与えていることを知る。
		人間生活と生態系の変化 環境の保全	生態系を変化させている人類は、環境を保全していかなければならないことを学ぶ。
		期末考査	

保健体育科 「体育(男子)」 シラバス

目 標 【学習指導要領】	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体の調子をを整え体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにすると共に、体の調子をを整え、体力の向上を図り、チームワークの必要性を自然に実感してもらう。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	オリエンテーションと体育理論	オリエンテーション	必修と単位修得について
			出欠・見学・けがなどについて
		体育理論	スポーツの歴史、文化的特性、現代のスポーツの特徴など
5	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさをあじわう。 自己のねらいに応じて体力の向上を図る。
5 6 7 9	陸上競技	短距離走、長距離走	個人での目標を持った克服型トレーニングや集団によるチームワークなどを重点的に時間をかけて指導する。あまり指導しすぎないように留意し、自ら楽しむことによる小さな成長を本人自身が実感できるよう配慮する。
	球技	ソフトボール	
		サッカー	
		バスケットボール (雨天時)	
10	体育理論	体育理論	効果的な学習の仕方、スポーツライフの設計の仕方など
10 11 12 1 2	球技	バスケットボール	基本的には前期同様であるが、課題をそれぞれのレベルにあわせて設定し、少しでも克服する楽しさを味わうことができるよう留意する。
		バドミントン	
		卓球	
		バレーボール	

保健体育科 「体育(女子)」 シラバス

目 標 【学習指導要領】	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体の調子をを整え体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにすると共に、体の調子を整え、体力の向上を図り、チームワークの必要性を自然に実感してもらう。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	オリエンテーションと体育理論	オリエンテーション	必修修と単位修得について 出欠・見学・けがについて
		体育理論	スポーツの歴史、文化的特性、現代のスポーツの特徴など
	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	・身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさをあじわう。 ・自己のねらいに応じて、体力の向上を図る。
5 6	陸上競技	持久走	
6 7 9	球技	バレーボール ソフトボール	・種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。 ・ゲームを通して種目の楽しさを味わいながら、個人や チームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ゲームの企画や運営・審判を行う。
10	体育理論	体育理論	効果的な学習の仕方、スポーツライフの設計の仕方
10 11 12	ダンス	現代的なリズムのダンス 創作ダンス	○ ダンスの特性を理解し、思い切り全身を動かしたり、リズムよく活動したりして、楽しさを味わう ・グループごとにテーマを設定し、作品を創作する。 ・作品の発表をする。
11 12 1 2	球技	バドミントン 卓球 バスケットボール	○自己の興味や適性に応じて種目を選択する。 ・種目の特性を理解し、個人の能力を把握する。 ・ゲームを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人の課題を設定しその解決に向けての練習を工夫する。 ・ゲームの企画や運営・審判を行う。

保健体育科 「 保健A 」シラバス

目 標 【学習指導要領】	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践出来るようにするため生活習慣病や感染症など現代が抱えている身近な問題を多く取り上げ、意欲を喚起する。 ・健康・安全についての基礎的な事項を理解し、知識を身につけるために、個人生活や社会生活が抱えている身近な問題を多く取り上げテーマを設定する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4月	健康の考え方	保健の授業について ・国民の健康水準と健康疾病構造の変化 ・健康の考え方と成り立ち ・健康に関する意志決定や行動選択 ・健康に関する環境づくり	保健学習の意味と学習の見通し ・健康の考え方は、健康水準や疾病構造とともに変化してきており、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 ・健康の保持増進には、個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかわることを理解する。
5月	健康の保持増進と疾病予防	・生活習慣病と日常生活行動 ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・感染症とその予防	・生活習慣病についての理解を深める。 ・喫煙と飲酒は生活習慣病の要因になること。薬物乱用は行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解する。 ・感染症の発生や流行における違いおよびその予防について理解する。
6月	精神の健康	・欲求と適応機制 ・心身の相関 ・ストレスへの対処 ・自己実現	・様々な欲求があることを理解する ・精神と身体には密接な関連があることを理解する。
	中間考査		・授業評価を実施
6月	交通安全	・交通事故の現状 ・交通社会に必要な資質と責任 ・安全な社会づくり	・交通事故を防止するには、法的な整備、施設設備の充実、車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解する。 ・災害に対する安全な社会づくりとして法的な整備、施設設備、災害情報が把握しやすい環境の整備などの対策が必要であることを理解する。 ・応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや、速やかに行う必要があることを理解する。
7月	応急手当	・応急手当の意義 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	・応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや、速やかに行う必要があることを理解する。
9月	期末考査		・授業評価を実施

保健体育科 「保健 B」 シラバス

目 標 【学習指導要領】	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践出来るようにするため生活習慣病や感染症など現代が抱えている身近な問題を多く取り上げ、意欲を喚起する。 ・健康・安全についての基礎的な事項を理解し、知識を身につけるために、個人生活や社会生活が抱えている身近な問題を多く取り上げテーマを設定する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
10月	生涯の各段階における健康	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康 	・生涯にわたる健康の保持増進は、各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていることを理解する。
11月	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の保健・医療制度 ・地域の保健・医療機関の活用 ・様々な保健活動や対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進には、各制度や機関の活用が重要であること。また、医薬品は正しく使用することが有効であることを理解する。 ・健康課題に対応して様々な保健活動や対策などが行われていることを理解する
12月	中間考査		・授業評価を実施
	環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 	・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響をおよぼすこともあり、それらの防止及び改善の対策をとる必要があることを理解する。
1月	環境と食品の保健	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保健にかかわる活動 ・食品保健にかかわる活動 ・健康の保持増進のための環境と食品の保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生活動は、環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。 ・食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。
2月	労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康 ・働く人の健康の保持増進 	・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解する。
	期末考査		・授業評価を実施

音楽科「音楽Ⅰ」シラバス

目 標 【学習指導要領】	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	音楽についての総合的な理解を深め、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習することが出来る機会をもうけ、学習活動のまとめの到達点において、生徒自身の自己評価や教師の評価を伝える。それにより生徒自身が目標達成度を知る。そしてそれが更なる学習の動機付けになるよう配慮する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4	歌唱	声の世界 1	椰子の実 浜辺の歌 他 ・日本語の発音を意識しながら歌う ・母音の口の開け方に注意しながら歌う。 ・発声の方法について考える。
5		西洋音楽の歴史 声の世界 2	西洋音楽の流れ Caro mio ben O sole mio ほか ・外国の歌に親しみ、文化の違いを意識する。 ・歌詞の意味と音楽を意識しながら歌唱する。
6			四季の歌 ・季節を意識しながら歌に親しむ。
7		前期末テスト	歌唱による発表 ・感じたものを意識しながら歌う。
9			ミュージカル 「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」 ・あらすじを意識しながら部分的に鑑賞する。
10	ミュージカル ・音楽と物語の関係について考える。 ・劇中の音楽の効果について考える。		
11	舞台芸術	オペラ 「ラ・ボエーム」 ・ミュージカルとオペラについて考える。 ・音楽の効果について考える。	
12		歌舞伎 歌舞伎の歴史としくみ ・ミュージカル、オペラとの共通点について考える。 ・歌舞伎の時代的背景について考える。	
1		音楽理論	音楽理論 音符・拍子・音程・楽語ほか ・音楽をつかさどる要素について学習する。 ・音符のしくみについて理解する。
2			後期テスト 後期のまとめ

芸術科 「美術Ⅰ」シラバス

目 標 【学習指導要領】	芸術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な創造活動を通して、美的な表現能力や鑑賞能力を育て、創造の喜びを感じさせる。 ・素描表現における選択の幅を広げるとともに、自己実現を目指し表現を追求していく主体的な態度を育てる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4 5	絵画	・身近なものを描く	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の鑑賞 ・被写体の観察と場面構成 ・制作 ・自己評価、鑑賞
5 6	彫刻	・紙を使ったデザイン（立体）	<ul style="list-style-type: none"> ・切り紙の技法の学習 ・折りの技法の学習 ・デッサンとデザイン ・カッターの使い方 ・制作 ・自己評価、鑑賞
7 9	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習と表現 ・切手のデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成要素の学習 ・色彩についての学習 ・技法についての学習 ・「切手」をテーマに表現（ポスターカラー、画用紙） ・自己評価、鑑賞
10 11	絵画	・人物イラスト	<ul style="list-style-type: none"> ・輪郭とパーツの捉え方 ・明暗の把握とグラデーションによる表現 ・鉛筆での表現 ・自己評価、鑑賞
11 12	版画	・銅版版画の基礎技法の学習と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎技法の説明 ・下絵の制作 ・転写、ニードルでの描写 ・腐食、印刷 ・自己評価、鑑賞
1 2	デザイン	CDジャケットのデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージと抽象的デザイン ・レタリングの学習 ・彩色と仕上げ ・プレゼンテーション ・自己評価、鑑賞

芸術科 「書道Ⅰ」シラバス

目 標 【学習指導要領】	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には意欲的、主体的に取り組む。 ・様々な古典の臨書から基本的な運筆、用筆法や用具用材の選び方、扱いなどを学ぶ。 ・初歩的な創作や作品鑑賞により感性を豊かにする。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4 5	書道入門 篆刻	ガイダンス 硬筆練習 双鉤填墨 姓名印制作	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する注意事項や書写と書道の違い、用具用材の扱い等を理解する。 ・一年間を通して実用的に美しい文字の練習をする。 ・教科書の中で、一番美しいと思う書を写し取る。 ・篆書で姓名印を作る。最古の文字を体感する。
5	漢字仮名交じりの書Ⅰ	書写の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・起筆の角度によって、雰囲気が変わることを体得する。
6 7	漢字の書Ⅰ ・隷書の学習 ・楷書の学習	木簡の臨書 曹全碑の臨書 薦季直表の臨書 牛欄造像記の臨書 鄭義下碑 雁塔聖教序	<ul style="list-style-type: none"> ・最古に近い肉筆の筆勢と特徴を感じる。〈見せる線〉 ・新聞の題字にも使われる隷書の特徴を感じる。〈波磔〉 ・温かさ、優しさを表現する。 ・厳しさ、力強さを表現する。〈露鋒・方筆〉 ・粘り強さ、大らかさを表現する。〈蔵鋒・円筆〉 ・細さと強さを表現する。〈太細〉
10	漢字の書Ⅱ	漢字の創作 表装	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを線や字形に反映させるために、いくつかの実験を行う。〈グループ活動と個人活動を織り交ぜる〉 ・鑑賞会を適宜行い、見る力をつける。 ・創作プリントを作成し、創作の作戦を立てる。 ・完成した作品を自らの手で表装する。〈学園祭に展示〉
11	仮名の書Ⅰ	いろは歌を練習 〈古典抜粋の臨書〉 蓬萊切の臨書	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名独特の線の練習をする。 ・いろは歌を使って、平仮名の練習をする。 ・平安時代の和歌を臨書し、想いを馳せる。
12	行書の学習	蘭亭序 風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の用筆と字形、特徴について ・流れるような運筆と穏やかで変化の多い線の表現 ・重厚で粘りのある線の表現 ・「風構え」の美しさを追求する。
1 2	漢字仮名交じり書Ⅱ	好きな言葉の創作	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを構成に反映させることを目指し、いくつかの実験を交えながら、「世界にひとつだけの漢字仮名交じり書」を完成させ、一年の集大成とする。

英語科「コミュニケーション英語Ⅰ」シラバス

目 標【学習指導要領】	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	基礎文法事項をもとに比較的平易な英文が理解できる。基礎的な英会話や簡単な作文などの形態で、理解した内容や自分の意見を発信することができる。

月	単元／章	指導／学習項目	目標／学習活動
4 5	1. Why Do You Study English?	Be動詞・一般動詞	基本動詞の復習をして、英語の語順に気づかせる。
		聞き返す表現	Pardon?を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
	2. Washoku: Our Traditional Food	助動詞	助動詞(can/may/must)の基本的な用法を学び、適切に使えるようにする。
		人を誘う表現	Why don't we~?を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
6 7	3.What Should I Do?	進行形	進行形(be動詞+動詞の～ing形)の用法を理解し、適切に使えるようにする。
		助言をする表現	Why not~?を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
7	4. My School, Your School	不定詞	名詞・形容詞・副詞的用法を学び、適切に使えるようにする。
		許可を求める表現	Can I ~? を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
7 9	5. Peace, the Polar Bear	動名詞	主語・目的語・補語としての用法をそれぞれ学ぶ。
		依頼する表現	Could you~?を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
	6. Flying Wheelchairs	現在完了形	現在完了形(have[has]+過去分詞)を学び、適切に使えるようにする。
10 11	7. Moving As One	受動態	受動態(be動詞+過去分詞)の基本的な用法を学び、適切に使えるようにする。
		謝る表現	I'm sorry I~. などの表現を学び、自分の感情を伝えることができるようにする。
	8.Convenience Stores: the Keys to Their Success	現在分詞・過去分詞	形容詞用法としての現在分詞・過去分詞を学び、動詞との違いを認識する。
		心配する表現	What's the matter ~?を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
12 1	9. Malala Yousafzai: Education Can Change the World 10. Ando Momofuku: The Father of Instant Noodles	比較	比較級を学び、ものごとを比較する表現ができるようにする。
		相手をほめる表現	I like your~.を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
		関係代名詞	who/which/that などの主格の関係代名詞を理解し、使えるようにする。
		希望を伝える表現	I'd like to~.を用いて、場面に合ったやりとりをすることができる。
1 2	Reading 2 : Hachiko	話の流れの予測	能動的な読み方で、話の流れを予測し、結末を考えることができる。
		大筋をつかむ	わからない単語や表現があっても、推測するなどして読み続けることができる。
		仮定法過去	仮定法過去(I wish~) の表現を学び、自分の願望を間接的に表現できるようにする。
		感想発表	読み取った内容について、感想を相手に伝えることができる。

家庭科「家庭総合」シラバス

目 標 【学習指導要領】	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に修得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	生活に必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費などの生活活動にかかわる事柄を、人の一生を見通しながら総合的に習得させる。人とのかかわりや日々の生活の営みが、学習内容と深く結びついていることを理解できるように工夫する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動	
4	食べる	人間と食べ物	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の今を見つめる。 ライフステージによる食生活の変化を考える。 	
		食品と栄養	<ul style="list-style-type: none"> 体に必要な栄養素を理解する。 炭水化物の働きとそれを多く含む食品を理解する。 脂質の働き・種類などを理解する。 たんぱく質の働きを理解する。 無機質の種類と働きを理解する。 ビタミンの種類と働きを理解する。 調味料や香辛料の働きを理解する。 健康食品の種類を理解する。 	
		食品の衛生と安全	<ul style="list-style-type: none"> 食品の選択と保存を考える。 食中毒と食品衛生を考える。 食品の安全安心について理解する。 	
		食事をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 食事計画を考える。 調理の基礎を理解し実習を行う。 	
		食生活の文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化を考え、行事食と郷土料理について理解する。 	
5	食べる	食生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の環境の変化を考える。 国際的な視野で食生活を考える。 	
		共生社会における家庭や地域	<ul style="list-style-type: none"> 共に生きる 社会保障・社会福祉のしくみ 福祉の活用と参加 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ キャリアを開く 	
		着る	人間と被服	<ul style="list-style-type: none"> 被服の役割と変化を考える。 ライフステージによる衣服の変化と自分らしい着装について考える。
		7	衣生活の自立と管理	<ul style="list-style-type: none"> 衣服購入時に必要なことを理解する。 衣服素材の種類と特徴を理解する。 健康障害や事故について理解する。 洗濯方法や手入れの方法を理解する。
			被服をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の構成を理解する。 個性の表現方法を考える。
衣生活の文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本の衣生活の伝統文化を理解する。 			
衣生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活の環境への負荷を理解し、環境に配慮した衣生活を考える。 			
9	住まう	人間と住まい	<ul style="list-style-type: none"> 住居の役割と変化を理解する。 	
		住まいと生活	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージと住空間を理解する。 平面図の読み取りかたを理解する。 	
		安全で快適な住まい	<ul style="list-style-type: none"> 健康で快適な住環境を理解する。 安全な住環境を考える。 	

10		住まいと社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会が求める住まい方を考える。 ・地域との関わりを考える。 ・東日本大震災の教訓を考える。
	生活をつくる	家庭経済と生活設計	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしと経済について考える。 ・生涯の生活設計を考える。
	社会参加する消費者	社会の変化と消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する販売方法、支払い方法について理解する。
		消費行動と意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての意思決定を考える。 ・消費者情報の取捨選択ができるようになる。 ・情報社会における課題について考える。
		消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題を考える。 ・消費者の権利について考える。
	環境保全とライフスタイル	持続可能な消費	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化について考える。 ・環境負荷低減を考える。
		持続可能な社会に向けたライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したライフスタイルを考える。
	人の一生と発達	人の一生と発達課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が成長・発達する主体であることを自覚する。
		青年期の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴を理解する。
		生活の自立と意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定と社会の関わりを考える。
11	家族・家庭と社会	現代の家族と家庭の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・家族について考える。 ・家族の機能の変化を考える。 ・現代の家族の特徴を考える。
		家族関係とあなたの人生	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の人生と家族の関わりを考える。
		家庭生活を支える労働	<ul style="list-style-type: none"> ・労働について考える。
		家族と法律	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に関する法律を理解する。
	これからの家族と家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と家族・家庭について考える。 	
	子どもの発達と保育・福祉	子どもとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと大人の世界の違いを理解する。
		子どもの発達と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達を理解する。 ・子どもの遊びを理解する。 ・子どもの生活を理解する。 ・家庭保育と集団保育を理解する。
親の役割と子育て支援		<ul style="list-style-type: none"> ・親の責任と役割を考える。 ・子育て支援を理解する。 	
12		子どもの権利と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待について考える。 ・子どもの権利と福祉を理解する。
	1	高齢者とかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のイメージと実態を知る。
		高齢者の生活と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の暮らしと健康を理解する。 ・高齢期の経済実態を理解する。 ・高齢期の豊かな過ごし方を考える。
	2	人間の尊厳とケア	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳とケアを考える。 ・日常生活の介護方法を理解する。
		高齢社会の課題と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の福祉を考える。

家庭科 「生活産業基礎」シラバス

目 標 【学習指導要領】	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	生活産業に関する職業に関心をもち、生活産業に関わる職業人に必要な知識や技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身につけるようにする。具体的な事例を通して、思考を深めたり、適切に判断したりできるようにする。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4 5	第1章 「生活産業基礎」を学ぶに当たって	生活産業基礎を学ぶ目的	専門教科に入学してきた意義を知る。
		生活産業とは	日頃の暮らしの中で生活に関わっている様々な職業について理解する。
		生活産業で働く人に求められること	専門的な技術をどのように身につけ、それをどのように生かして、社会のために貢献しておられるのかを知る。
		生活産業のスペシャリストへの道	専門科目の学習と職業とのかかわりを学ぶ。
6 7	第2章 社会の変化と生活産業	生活と産業とのかかわり	日本標準産業の分類を学び、第1次産業、第2次産業、第3次産業と生活のかかわりについて知る。
		社会の変化とライフスタイルの変化	日本経済の発展と、国民所得、主要耐久消費財の普及、合計特殊出生率の変化、男女雇用機会均等法などを調査し、統計を分析し、ライフスタイルの変化を理解する。
		産業構造の変化と生活産業の発展	産業構造の変化と、年齢別就業者の割合の推移を知り、生活産業の発展について知る。
9 10	第3章 生活産業と職業	食生活関連分野の産業と職業 食生活の変化と生活産業のかかわり	現代の食生活の課題について知り、食糧自給率、輸入食品の問題、健康志向について、現状を理解する。
		食生活関連産業の職業と資格	食品製造業、外食産業、食品流通業について調査し、理解する。営業給食にかかわる分野においては、専門職の話を聴く。
		衣生活関連分野の産業と職業 衣生活の変化と生活産業とのかかわり	ファッション産業の現状を知り、エコロジー意識の高まりとエバーサルデザインの需要の多さを知る。
11 12		衣生活関連産業の職業と資格	アパレル素材産業、アパレル産業、ファッション小売り産業、アパレル商品の企画や生産の流れについて知り、日々身につける衣料品について知る。
		住生活関連産業の職業と職業 住生活の変化と生活産業とのかかわり	伝統的な日本の住居、現代の住居、これから求められている住居について学び、住環境の質の高さが快適な毎日に繋がることを知る。

1		住生活関連産業の職業と資格	インテリアにかかわる職業を知り、一戸建てや集合住宅ができあがるにかかわる職業を知る。
		ヒューマンサービス関連分野の産業と職業 社会の変化とヒューマンサービス	我が国の社会福祉、介護、子育てに求められるヒューマンサービスについて理解する。
		ヒューマンサービス関連産業の職業と資格	介護福祉、社会福祉、精神保健福祉士、幼稚園教諭、ベビーシッター、の従事者に求められる資質を知る。
2	第4章 職業生活 と自己実現	職業生活と生きがい	職業と自己実現について考える。
		将来の生活と学業	将来設計と進路計画について考える。

家庭科「生活産業情報」シラバス

目 標 【学習指導要領】	生活産業における情報の意義や役割を理解させ、情報の処理に関する知識と技術を習得させるとともに、生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な 取り組み【評価規準を念頭に置 いた指導上の留意点】	生活産業の情報化の進展に対応し、生活産業の各分野において情報モラルやセキュリティ管理の重要性を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークを活用する能力と態度を育てる。

月	単元／章	指導／学習項目	指導／学習内容
4	オリエンテーション	「生活産業情報」を学ぶにあたって	学習の意義や内容、学習方法や評価の方法、情報処理室の使い方など理解する。
5	情報化の進展と生活産業	情報化の進展と社会	情報通信ネットワークの普及により、生活や産業が変化していることを理解する。
6		生活産業における情報化の進展	生活産業における情報機器や情報通信ネットワークの役割や利用状況について理解させ、生活産業における情報機器や情報通信ネットワークの重要性を認識する。
7	情報機器と情報通信ネットワーク	情報機器の仕組み	コンピュータの仕組みについて、ハードウェアやソフトウェアについて理解させ基本操作ができるようにする。
9		情報通信ネットワークの仕組み	インターネットや電子メール等の情報通信ネットワークの仕組みについて理解させ、基本操作ができるようにする。
10	生活産業における情報及び情報手段の活用	日本語ワードプロセッサによる情報の処理	日本語ワードプロセッサの概要を理解し、『マイクロソフト社ワード』を使ってその操作方法を習得し、活用できるようにする。
11		表計算ソフトによる情報処理	表計算ソフトについて理解し、『マイクロソフト社エクセル』を使って基本的操作ができる技術を身につける。さらに、データを分析活用する能力を身につける。
12		生活産業の各分野における活用	情報通信ネットワークを利用して、各ソフトウェアを活用し、生活産業に関する情報の収集、処理、分析、発信ができるようにする。
1	情報モラルとセキュリティ	情報モラル	個人のプライバシーや著作権などの侵害、収集した情報の管理、情報の発信としての責任について理解させ、情報モラルを身に付ける。
2		情報のセキュリティ管理	ネットワークシステムを利用した情報の不正取得や改ざんなどのコンピュータ犯罪とその対策としてのセキュリティ管理の重要性を理解する。

家庭科「課題研究」シラバス

目 標 【学習指導要領】	生活産業の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	生活産業の各分野に関する課題について、生徒自身が課題を発見するように指導を工夫し、自由な発想で課題を設定する。課題の解決を図る学習については、課題解決の方策を検討し、学習計画を立てて自主的に実践する学習活動を重視する。専門的な知識と技術の定着を図り、実際の場面で応用発展し、変化の激しい社会において問題解決の能力や自発的な学習態度を育てる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習活動
4	課題設定	研究課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭総合」、家庭に関する専門科目での学習を生活や生活産業と関連付ける。 ・学習を深めたい分野、内容を決定し、研究課題を設定する。 ・資料の収集方法、プレゼンテーションの方法などを理解する。
5		研究課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍、インターネット等を活用し、課題についての資料を収集しまとめる。 ・新聞記事、地域の情報等を活用し、課題と社会との関連を明確にする。 ・調査、実験、製作、見学、交流等の実践方法とそのまとめ方について理解する。 ・研究の構想を発表する。
6	研究計画作成	実践内容の明確化 研究計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・実践内容を明確にし、研究計画を作成する。 ・課題解決のための実践活動を計画（日程、費用等）する。
7	研究実践	実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり、人のかかわりなどを意識した実践活動に取り組む。 ・アンケート調査、市場調査、聞き取り調査などの実態調査をする。 ・実験、製作などに取り組む。 ・施設見学や体験をする。 ・実践活動を記録し、整理する。 ・研究実践の経過を発表する。 ・実験、製作などに取り組む。 ・施設見学や体験をする。
9			
10	研究のまとめ	プレゼンテーション原稿の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・研究実践の記録をもとに、プレゼンテーションの設計をする。 ・実践を通して、気づいたこと、わかったこと、できるようになったことを明確にする。
11		口頭試問	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に関する質問に答える。
12		発表の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を精選する。 ・プレゼンテーションシートの順序、文字の大きさや量などを検討する。 ・プレゼンテーションシート、発表原稿を整え、練習する。
1	研究発表	クラス内での発表	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子の原稿を作成する。 ・研究したことを発表する。
2		生活文化科での発表	<ul style="list-style-type: none"> ・研究したことを発表する。これからの生活に生かすようにする。

情報科「社会と情報」シラバス

目標 【学習指導要領】	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現させる。 効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 身近な情報をとらえそれを活用する力を養う。コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習を積極的に取り入れ、実習の結果や成果だけではなく実習の過程における生徒の取り組みの姿勢等も評価する。

月	単元／章	指導／学習項目	指導／学習内容
4		オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの生徒の知識・技能・経験などの調査を行う。 ・コンピュータの起動や終了方法を習得する。 ・自己紹介などの文章を作成し、共有フォルダに保存する実習を行うことで、必要な操作を習得する。 ・コンピュータ教室でのマナーを理解する。
5	1章 情報社会とわたしたち	1. 情報社会 2. 情報社会の個人	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や知識についての意味を理解する。 ・情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解する。 ・情報化人類は利益と幸福をもたらしていることについて理解する。 ・情報化の「影」について、高校生に身近な事例で理解する。 ・個人情報の意味と個人情報保護法について理解する。 ・個人情報保護の実態、防止策について学ぶ。 ・メールやSNSを利用する際のモラルとマナーについて学ぶ。 ・有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解する。
		3. 情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の残存性、複製性、伝播性など情報社会における情報の特徴について理解する。 ・情報とメディアの関係、メディアの分類を理解する。 ・各表現メディアの特性について理解する。 ・マスメディアやインターネット等、情報メディアの特性を理解する。 ・記録メディア、通信メディアなど伝達メディアの特性を理解する。 ・情報の信頼性、信頼性について理解する。 ・メディアリテラシーの意味を理解する。 ・CMなどメディアから受け取る情報を分析して発信者の意図を理解する。 ・情報伝達における適切なメディアの選択について理解する。
6	2章 情報機器とデジタル表現	1. デジタルと情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの意味について理解する。 ・デジタル化のメリットについて理解する。 ・情報機器の種類と特徴、インターフェースについて学ぶ。 ・デジタルカメラの原理や画像・映像の処理について学ぶ。
6		2. デジタル表現	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を2進数で表現することについて理解する。 ・情報量の概念と単位について理解する。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換ができるようにする。
		前期中間考査	
6	2章 情報機器とデジタル表現	2. デジタル表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文字のデジタル表現について理解する。 ・音声の標準化、電子化、符号化について理解する。 ・周波数・周期の関係や、標準化定理について理解する。 ・デジタルでのカラー表現の原理について学ぶ。 ・画像のデジタル化の仕組みと、解像度と階調と画質の関係を理解する。 ・図形のデジタル表現について理解する。 ・動画と立体のデジタル表現について学ぶ。 ・音声のデータ量を求めることができるようにする。 ・静止画・動画のデータ量を求めることができるようにする。
7	3章 表現と伝達	1. 表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達する際の留意点について学ぶ。 ・チラシや案内状の作成を通じてわかりやすい情報伝達について学ぶ。 ・企画書の作成を通じて、文字・表・図・画像などを工夫して利用する。
		2. 表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトへのデータ入力について実習で学ぶ。 ・相対参照と絶対参照の使い分けについて実習で学ぶ。 ・各種のグラフとその特徴について学ぶ。 ・表計算ソフトを使ってグラフを作成する。
		前期期末考査	
7		2. 表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算を利用してデータの並び替えができるようにする。 ・表計算を利用してデータの抽出ができるようにする。 ・表計算ソフトの関数の利用について理解する。 ・SUM、IFなどの関数を利用してデータの統計や、条件のある計算を実習で習得する。 ・表計算ソフトの検索用関数（VLOOKUP関数等）を利用して、条件に合ったデータの検索について実習で学ぶ。
9		3. プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション実施の流れについて学ぶ。 ・プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。 ・プレゼンテーションの評価方法について学ぶ。 ・静止画と動画の利用効果について実習を通じて学ぶ。 ・画像と音響の利用効果について実習を通じて学ぶ。
10		4. Webページの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイト制作の流れについて理解する。 ・Webサイト制作実習を通じて、文字、画像の表示やリンクの設定を学ぶ。 ・Webサイトの評価方法について学ぶ。 ・CSSの利用や意義について学ぶ。
	3章 表現と伝達	1. コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の進歩によるメディアの発達の歴史について理解する。 ・メディアの変遷によるメリット・デメリットについて理解する。 ・発信者と受信者の人数・位置関係によるコミュニケーションの分類について理解する。 ・同期・非同期によるコミュニケーションの分類について理解する。 ・電子メール・ブログ・SNS・テレビ会議システムを利用したコミュニケーションと留意点について学ぶ。 ・電子メールやメーリングリストを利用する時のルールとマナーを理解する。 ・電子掲示板を利用する時のルールとマナーを理解する。
		2. ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・回線交換方式とパケット交換方式の違いについて理解する。 ・パケット交換方式の長所と短所について理解する。 ・コミュニケーションを行う時のプロトコルについて学ぶ ・TCP/IPについて理解する。 ・クライアントサーバシステムについて学ぶ。 ・IPアドレスやドメインについて学び、実習でIPアドレスを確かめる。 ・WWWについて学び、ブラウザでWebページを表示する仕組みについて理解する。 ・電子メールの仕組みについて学ぶ。 ・地図情報、動画配信サービス等のインターネットサービスについて学ぶ。 ・転送速度とデータ量の基本的な計算ができるようにする。 ・情報を正確かつ効率的に転送する工夫について理解する。 ・デジタル情報の圧縮について理解する。
		後期中間考査	
12	5章 法規とセキュリティ	1. 情報の管理・保護に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の構成について理解する。 ・産業財産権の種類と内容について事例を通じて理解する。 ・著作権の構成と各権利の内容、及び例外規定について理解する。 ・著作権の侵害事例について理解し、著作権法を守る態度を身に付ける。 ・出会い系サイト規制法など、情報社会に係わる大切な法律について理解する。 ・自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。
		2. 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルスの種別や被害の状況、及びその対策について理解する。 ・情報の暗号方式（共通鍵方式と公開鍵方式）について理解する。 ・デジタル署名、電子透かし、アクセス制御などセキュリティ技術の方法について理解する。 ・情報のフィルタリングについて理解する。 ・企業や組織のセキュリティ対策の必要性を理解する。 ・情報セキュリティポリシーの目的・内容や実際の事例について学ぶ。
1		1. 情報システムと人間	<ul style="list-style-type: none"> ・座席予約、POSなど身近な情報システムの仕組みと働きについて学ぶ。 ・行政や企業の情報システムについて学ぶ。 ・クラウドコンピューティングの概要を知る。 ・ユーザインタフェースの工夫やアクセシビリティについて事例で学ぶ。 ・情報の受け手のことを考えた情報表現やユーザビリティの工夫について考える。 ・サイバー犯罪の種類と具体例を理解し、受信者のリスクや対策について考える。 ・デジタルデバイスなど情報社会の課題について考える。
1	6章 情報社会と問題解決	2. 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を理解する。 ・問題解決のための手段の選択について考える。 ・プレゼンテーションソフト、統計などアイデアの収集と分類について学ぶ。 ・データの統計処理とグラフ化、及びグラフを利用した分析について学ぶ。 ・アンケートの回答方法について学ぶ。 ・テキストマイニングなどテキストデータの分析方法について理解する。 ・実際に問題解決を行うことにより、問題の明確化、情報の収集・整理・分析の技術を上達させる。 ・問題解決の結果をWebページ等を利用して公開する。
2		後期期末考査	

情報科「情報の科学」シラバス

目 標 【学習指導要領】	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させる。情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させる。情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。身近な情報をとらえそれを活用する力を養う。コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習を積極的に取り入れ、実習の結果や成果だけではなく実習の過程における生徒の取り組みの姿勢等も評価する。

月	単元／章	指導／学習項目	指導／学習内容
4		オリエンテーション	・中学までの学
		序章 情報社会と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術や、それによって実現されるコミュニケーションなど、情報化の明るい側面と、ものと情報の違いを学ぶ。 ・電子掲示板での誹謗・中傷、ネットワークを利用した犯罪、個人情報の流出など、情報化の暗い側面を学ぶ。 ・情報の信頼性を判断すること、情報技術を理解すること、法律に従い、モラルとマナー守ることの重要性を学ぶ。
5	1章 情報とコンピュータ	1. 情報の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの違い、デジタル化の特徴について学ぶ。 ・カードの数字をあてるゲームから、情報量について学ぶ。 ・「Yes」「No」が「0」「1」で表される2進数になることを学ぶ。 ・質問の回数が増えれば情報量も増えていくことを理解し、情報量の単位について学ぶ。 ・2進数、10進数、16進数の関係を学び、相互に変換できるようにする。 ・論理積・論理和・否定、真理値表について学ぶ。 ・電気回路をモデルに論理回路を理解する。 ・2進数の足し算を論理回路で表現した半加算回路について学ぶ。
5		2. コンピュータでのデジタル表現	<ul style="list-style-type: none"> ・負の数が補数で表現されること、補数を使った計算について学ぶ。 ・コンピュータでの整数と実数の表現について学ぶ。 ・コンピュータ内部では文字がコードで表されることを学ぶ。 ・文字コードには、様々な種類があることを学ぶ。 ・アナログ信号とデジタル信号の違いについて学ぶ。 ・音のデジタル化の仕組みについて学ぶ。 ・デジタル化された情報の特徴について学ぶ。 ・カラー画像の表現について学ぶ。 ・画像のデジタル化、解像度、階調について学ぶ。 ・図形・動画の表現について学ぶ。 ・圧縮と伸張の仕組みについて学ぶ。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いについて学ぶ。 ・ファイルの種類と圧縮形式について学ぶ。
6		3. コンピュータの仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・人間をモデルにして、コンピュータの構成要素について学ぶ。 ・基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、インタフェースについて学ぶ。 ・CPU内部の構成について学び、CPUの動作を理解する。 ・コンピュータ内部の計算の仕組みを学ぶ。
		前期中間考査	
6	2章 ネットワークの仕組みと情報システム	1. ネットワークの仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サイトを用いて、効率よく情報を収集する方法を学ぶ。 ・情報の信頼性を確認する方法を学ぶ。 ・ネットワークを利用した情報収集の例を学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を共有する方法を学ぶ。 ・情報を共有する際の注意を学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を収集、整理・分析、発表・発信し評価と改善を行う方法を学ぶ。 ・ネットワークを使った場合と、使わない場合の違いを理解する。
6		2. 情報システムと情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの定義を理解し、身近な情報システムについて学ぶ。 ・情報システムにおける情報の流れ、個人情報の扱いを学ぶ。 ・利用者、管理者によるセキュリティ対策について学ぶ。 ・セキュリティ対策技術の例について学ぶ。
7	3章 問題解決のためのコンピュータ活用	1. 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の定義と手順について学ぶ。 ・ブレンストーミングとKJ法について学ぶ。 ・表計算ソフトを活用した問題解決について学ぶ。 ・アルゴリズムとプログラミング、モデル化とシミュレーション、データベースと情報検索などの問題解決のための手段を学ぶ。
7		2. アルゴリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムについて学び、簡単なアルゴリズムをフローチャートで表現できるようにする。 ・順次・選択・繰り返しなどのアルゴリズムの基本構造について学び、文章やフローチャートで表現できるようにする。 ・逐次探索、二分探索の方法について学ぶ。 ・交換法による並べ替えについて学ぶ。 ・探索や並べ替えの方法については、カードやコンピュータのソフトウェアで体験的に確認する。
		前期期末考査	
7	3章 問題解決のためのコンピュータ活用	2. アルゴリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルによるプログラミングの基礎を学ぶ
9		3. モデル化とシミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化の概念や手順について学ぶ。 ・モデルの分類と、モデル化をする際の注意点について学ぶ。 ・不規則なものを含まない、時間の経過によって対象が変化する現象のモデル化とシミュレーションについて学ぶ。 ・不規則なものを含む現象のモデル化とシミュレーションについて学ぶ。 ・店舗と客の両方がより満足を得る待ち行列の解消策を、モデル化とシミュレーションによって検討する。
10	4章 ネットワークとデータベースの活用	1. ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サイトを用いて、効率よく情報を収集する方法を学ぶ。 ・情報の信頼性を確認する方法を学ぶ。 ・ネットワークを利用した情報収集の例を学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を共有する方法を学ぶ。 ・情報を共有する際の注意を学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を収集、整理・分析、発表・発信し評価と改善を行う方法を学ぶ。 ・ネットワークを使った場合と、使わない場合の違いを理解する。
11		2. データベース	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの概念と機能について学ぶ。 ・データベースの種類や特徴について学ぶ。 ・表計算ソフトのデータベース機能について学ぶ。 ・データベースの定義と身近な活用例について学ぶ。 ・「図書館の貸り出し管理」を題材として、データベースの具体的な作成方法について学ぶ。
12		後期中間考査	
1	5章 情報技術と社会	1. 情報化による生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を支える情報技術について学ぶ。 ・社会を支える情報技術の具体例について話し合う。 ・情報バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を学ぶ。 ・エビタスネットワーク社会を構成する情報技術について話し合う。 ・ウェアラブルデバイス、ユーザビリティについて学ぶ。 ・知的財産権、産業財産権とその保護について学ぶ。 ・著作権、肖像権、パブリシティ権とその保護について学ぶ。
1		2. 情報技術による社会の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの変遷について、歴史的に学ぶ。 ・情報通信技術を利用したコミュニケーションについて学ぶ。 ・情報格差やテクノストレスなどの問題について学び、その解消法について話し合う。 ・ネットワークコミュニケーションのマナーについて学び、これを守るための方法について話し合う。 ・クラウドコンピューティングについて学ぶ。
		後期期末考査	
2			